

Title	本研究会の活動（2022年4月～2023年3月）
Author(s)	
Citation	詞林. 2023, 73, p. 48-49
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/91288">https://hdl.handle.net/11094/91288</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

本研究会の活動（2022年4月～2023年3月）

第31回 2022年4月16日（土）

『和漢朗詠集』の排列基盤

— 公任の編纂意識を探る —

室町中後期における『源氏物語』第三部の注釈態度

— 登場人物の呼称に対するまなざし —

『うつほ物語』の平安京

— 「一条」空間を中心に —

百井 花

川 測 紗佳

飯田 実花

第32回 2022年9月3日（土）

『元久詩歌合』と『内裏詩歌合』における漢詩句の詠法

黄 夢鶴

陽明文庫蔵『源氏物語註』の基礎的研究

— 「萬水一露」の成立過程と注釈姿勢の再検討 —

松本 大

第323回 2022年11月26日（土）

『狭衣物語』（巻四）の脱文とその本文吟味

小林 理正

第324回 2023年1月28日（土）

『源氏物語』における内大臣の位置

「春曙」題の始点と展開

— 「曙」と「あけぼの」の関係から —

西澤 知歩

篠原 美夏

第320回 2022年6月25日（土）

古今集時代の〈月下の白菊〉の構図形成について

蒲 姣艶

千穎集序をめぐる

滝川 幸司

第321回 2022年7月30日（土）

慶滋保胤「為大納言藤原卿息女女御四十九日願文」における『往生要集』の思想

小西 洋子

第325回 2023年2月18日（土）

『大和物語』と『後撰和歌集』の関係性

— 私家集『兼輔集』を媒介に —

『古今和歌集』における色彩の表現

— 「染む」を中心に —

「高唐賦」と仏教思想

— 空海・道真の願文を中心に —

安 伯潔

小西 洋子

第326回  
2023年3月25日（土）

平安朝の竟宴詠史詩について

―「北堂漢書竟宴各詠史得淮南王劉安」を中心に―

李 恬恬

夕霧・紅梅の呼称から見る室町後期の『源氏物語』注釈史

―『一葉抄』『弄花抄』『綱流抄』を拠点として―

川 渕 紗佳